

平成20年度第2回千葉県廃棄物処理施設設置等専門委員会（現地視察）について

1 日時

平成20年10月8日（水） 13時15分～17時00分

2 場所

(1) (株)タケエイ四街道リサイクルセンター

住所：四街道市長岡272-1

(2) (株)タケエイ(仮称)成田安定型最終処分場建設地

住所：成田市大室字高台1100番2

3 目的

(株)タケエイ四街道リサイクルセンター及び(仮称)成田最終処分場の建設現場を視察し、実際に埋立て処分される産業廃棄物の実態及び安定型最終処分場の建設現場を視察すること。

4 参加者

専門委員会委員4名

環境対策監

廃棄物指導課職員6名

5 内容

(1) 環境対策監挨拶

(2) 委員挨拶

(3) (株)タケエイ代表者からの挨拶及び会社概要の説明

代表取締役社長 三本守氏から挨拶の後、会社概要のビデオを視聴し、社長から補足説明があった。その概要は次のとおり

(株)タケエイは、四街道リサイクルセンター、川崎リサイクルセンター、大木戸最終処分場を運営しており、関連会社としては(株)リサイクル・ピア、(株)池田商店、(株)ギプロと協力して処理体系を構築し、全体で年間約150万 m^3 の廃棄物を扱っております。

中間処理施設に搬入してくる混合廃棄物は、まず選別され、コンクリート・コンクリートがらは再生砕石に、木くずはパーティクルボード原料や燃料に、金属くずは製鉄・非鉄原料に、石膏ボードは石膏ボード・セメント原料に機械選別されます。

(株)リサイクル・ピアでは、残ったダスト等は製鉄副資材として転炉の副資材原料に使用されています。

最終処分場では、他社の廃棄物を直接受入れた埋立処分は行っておりません。

必ず、タケエイの中間処理施設を経た後、自主基準を満たした廃棄物のみを埋立て処分しています。埋立の品質管理を徹底しています。

タケエイグループ全体のリサイクル率は目標は90%、現段階では85%に達しています。

燃料チップは、タケエイなど11社が共同して燃料チップの集荷を行う新エネルギー供給(株)、保管・品質管理・供給を行う循環資源(株)を立ち上げ、市原市の市原グリーン電力(株)に、発電の燃料として供給しています。

廃棄物の処理の基本は、選別です。なるべく燃やさないことを念頭に処理体系を構築しています。

(4) (株)タケエイ四街道リサイクルセンター

別添のパンフレットにより処理工程等について説明後、現地視察を行った。

(5) (仮称)成田最終処分場の建設地の説明

別添の資料により施設の概要を説明後、現地視察を行った。

(6) 質疑

質問：廃石膏ボードのリサイクルはどの様になされるのか。

回答：紙は剥離後製紙原料や RDF 燃料としており、石膏粉末は石膏ボードメーカーへ納品。廃石膏を焼却すると無水石膏に変化する過程で相当量のカロリーが必要となることから焼却は避けるべきと当社は考えている。

質問：固形燃料化してどの様に使用されているか。

回答：工場内で発生する粉塵ダスト・紙くず等を原料として作られた製鉄副資材は、固形燃料ではなく、製鉄メーカーにおいて転炉での溶鋼の際、消泡剤として使われています。

質問：埋立て処分場はいつ頃完成するのですか。

回答：年度内完成の予定です。

質問：最終処分場に埋立て処分するがれき類については、破碎後商品として売却すれば最終処分場は不要ではないか。

回答：当社は処分場依存型の処理システムを考えていない。しかし、リサイクルの難しいものなどどうしても処分場へ搬入しなければならないものはある。埋立て処分量は前期実績で4.8万ト。約150万m³のうちおよそ5%しか埋立てていない。

質問：本日配付された資料には、自社の中間処理施設以外からの受入れる例外が書かれているが如何か。

回答：資料を訂正します。他社の中間処理施設からの受入れに関して、例外は設けません。

質問：埋立て方法ですがサンドウィッチ工法とありますが、法面も同じか。

資料に誤解を生む表現がありました。法面は全て土砂で行います。

以上